
一人鬼乱舞

柏木 柊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

一人鬼乱舞

【Nコード】

N4730BA

【作者名】

柏木 柊

【あらすじ】

20X1年、生物の一部が理性を失い、暴走した。ご多分を漏れずゾンビ化した人類である「狂人類」から身を守る為、世界中の都市は閉じられたのだった。しかし、中途半端に狂人類になりゾンビ化し損ねた人々、「超人類」には超能力が宿ることが発見される。

命からがら「横浜閉所」に逃げ込んだ高校生、榊谷 七一は「超人類部」なるものに強制参加させられることに。

愉快な超人類の仲間達と共に過ごす過激な日々。

裏で蠢く陰謀？

そんな中「開花」する七一の能力は伝説級のモノで……

ラノベ系超ハイスクールアクション！

ラブコメもあるよ？（予定）

F i r s t E p i l o g u e (前書き)

コンセプトとしては”様々なラノベの要素を一つに詰め込んでみよう！”そんな感じ。

尊敬する作家は西尾維新です。

First Epilogue

世界について考えてみた事はあるだろうか。

自分がいて、

知っている人がいて、

知らない人がいる筈で、

そして宇宙が広がっていて、

そんなことを考えて時間を潰したことはないだろうか。

はっきりとした答は出ていないかもしれない。

いや、多分出ていないだろう。

問すら明確ではないのだから、答なんてあやふやなものに決まっている。

これに限らず、確かな答など胡散臭いだけなのだからな。

それでも、臆げながらに考えを巡らせた経験はあるだろうか？

自分は、ある。

最初は小学生の頃だったろうか。

正確には覚えていないが五、六年生ぐらいだろう。

どんな子どもかと言えば、嫌な子どもだったように思う。

クラスに一人はいるような小賢しい子ども。

そんな子どもだった。

そんな子どもだったからこそ、世界について考えてみようと思ったのだろうか。

それとも、大人ぶって見たかっただけなのだろうか。

いや、違う。

偶然見つけたのだ。

何かの本（当然、小難し気な本だった）で読んだのだ。

「宇宙は我々観測者が居るからこそ存在できるのだ。我々が死に絶え、誰も月を、太陽を、星々を観ることが出来なくなればそれは無いのと同じことだ」

こんな内容だったと思う。

所詮、小学生が読む本なので、もう少し易しい内容だったかもしれない。

いや、気取っていた自分は大人向けの、もっと難しい本を読んでいたかもしれない。

まあ、どちらにしても同じことか。

当時の自分は何を言っているのか分からなかったからだ。

書いてある事は分かったが、書いてある意味は解らなかった。
何を馬鹿なことを、
そんな気分だった気がする。

次は中学生の頃だ。

一年生だった。

その頃の自分は、割と普通の中学生だった。
自分を省みることができるようになり、割と賢く生きられるようになった。

友達も増えたし、道化を演じることも出来た。

成長したのだ。

そう、成長。

大事なことである。

ある時、ひいばあちゃんが死んだ。

少し遠い親戚だったから、年に一度ぐらいしか交流がなかったが、面識はあった。

割と、突然に死んでしまったように思う。

特に持病は無かった筈なので、寿命なのだろう。

悲しくはなかった。

いや、違う。

悲しかった。

しかし、悲しさよりも虚しさを感じていた。

初めて身近な人が死んだのだ。

死体もあつという間に灰になってしまった。

生まれて初めて人が消えて、去ってしまうのを見た。

可愛がられていた妹は、わんわんと声を上げて泣いていた。

確か自分も、泣いた気がする。

しかし、変わらなかった。

何も変わらなかったのだ。

葬式の次の日には学校に行ったし、三日もすれば悲しさは無くなっていた。

変わったとすれば、じいちゃんの家にお墓が出来たことぐらいである。

この時、薄っすらと感じたのだ。

世界なんてこんなものか。

こんな適当なものが世界なのか。

こんな薄っぺらいものが世界なのか。

人が生まれたって、死んだって。

なんの変化も起こらない。

何が増えようが、何が減ろうが。

ただ、地球は廻るだけなのか。

そんな雑なつくりなら、いつか壊れてしまうだろう。

そんな気分だった。

そして高校生。

中学二年の頃から感じていて、今なおそうだと思っている。

いろんなことがあった。

死にそうだったし、自分の知り合いは何処にいるのか、あるいは生きているのかさえも、わからない。

この目で見えたものは、地獄そのものだったようにも思える。

そう、

こういう事なのだ。

世界は、

世界は、

世界は、

どうやら壊れてしまったらしい。

そんな気分だ。

F i r s t E p i l o g u e (後書き)

感想募集中！

というかアイデアが足りない……

あと、アニメの偽物語の感想も聞きたいw
個人的にはすげえ面白いのですが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4730ba/>

一人鬼乱舞

2012年1月12日23時03分発行